

平成27年8月20日

第45回岡山県高等学校商業教育研究大会 分科会報告

分科会

<教育課題研究委員会>

○テーマ「グローバル社会へ対応した商業（ビジネス）教育の推進

～一歩前へ 研究から実践へ 一校一実践の取り組み～

玉野市立玉野商業高等学校 主幹教諭 向井 一郎

岡山県立岡山東高等学校 教 諭 江口誠二郎

岡山県立倉敷商業高等学校 教 諭 西山 幸江

岡山県立玉島商業高等学校 教 諭 行成 貴由

- 内容
- 1 グローバル人材の定義とは（文科省と国際バカロレアから）
 - 2 企業や大学から求められるもの
 - 3 中国五県の商協加盟校の実践事例報告（アンケートから）
 - 4 平成27年度商協シンガポール短期研修について
 - 5 グローバル人材育成について先進的取組をしている高校の紹介
 - ① 島根県立隠岐島前高校
 - ② 広島県立広島商業高校
 - ③ 広島市立広島商業高校
 - ④ 岡山県立津山商業高校
 - ⑤ 岡山県立岡山東商業高校
 - ⑥ 岡山県立岡山南高校

（質疑応答）

本田先生（県立広島商）：キラーニハイスクールと交換留学を実施。広商から H25 年 3 週間 6 名が留学。

生徒たちは戸惑わずに交流。英語ができなくても身振り手振りでコミュニケーションをとる。お互いの日常が当たり前ではなく勉強になっていた。

松田先生（津山商）： 資金の捻出や全校生徒に還元できないのが課題。行った生徒は価値観が変わる。海外へ出る、実践することは大切。

長谷川先生（倉敷商）： 地元で就職し活躍する生徒に対して、グローバル人材の育成をどのように生かしていくのか

岡田委員長（笠岡商）： 当委員会は4年前からグローバル教育について研究している。今年度は今までの研究を実践し、シンガポール留学を予定している。各県商業協会では海外研修に取り組んでいるのは新潟県がある。岡山県は2県目である。商業高校の多くは地元で就職し、進学しても卒業後はも地元へ帰り、地域で活躍する生徒が多い。今後、高齢化社会が進み地方ほど外国人労働者が沢山働き、身近な企業でも外国人と同じチームで教え子たちが働く社会になってくる。これに対応するのがグローバル人材の育成。商業高校として、従来のような検定指導やツール指導から一歩踏み出し、これからの商業教育がグローバル社会に対応できる人材の育成を目指した教育をしていかなければならない。